会派等研究研修報告書

令和５年 10 月 27 日

常滑市議会議長　様

会　　派　　名　日本維新の会議員団
会派の代表者　肥田　裕士

会派等の研究研修について下記のとおり報告します。

記

１　期　　日　令和５年 10 月 18 日（水）～令和５年 10 月 20 日（金）

２　研　修　名　令和５年度市町村議会議員研修「地方財政制度の基本と自治体財政」

３　場　　所　全国市町村国際文化研修所
（滋賀県大津市唐崎２丁目 13 番１号）

４　参　加　者　肥田　裕士

５　研修の内容　講義・講演を通じて、地方財政についての基本的知識の習得や、財政診断についての考え方を学ぶ。事例紹介を通じて、自治体の財政健全化についての取組や財政運営について学ぶ。自治体財政の現状と課題を理解し、議員や議会の役割について理解を深める。

・地方財政制度の基本
・臨時財政対策債は本当に確実に償還できるか
・社会保障給付増を交付税は支え切れるか
・経常収支比率は 80%が適切か

６　講　　師　総務省地方財政審議会　会長　小西砂千夫他

７　経費の報告

常滑駅－名古屋（名鉄）	680 円×２＝1,360 円
名古屋－唐崎（ＪＲ）	2,640 円×２＝5,280 円
特急券（名古屋－京都）	3,270 円×２＝6,540 円
研修経費	10,200 円
	総合計 23,380 円

８　所　感　　小西砂千夫氏の論文は 20 年前、名古屋大学大学院博士課程在学中の時によく読んだ。当時、関西学院大学の教員をしておられ市町村合併の論文をたくさん書いておられた。おぼろげながら覚えているのは、合併交付金、合併特例債についての説明を当時よくしておられた。それらの国の合併を推進するためのインセンティブである制度とは別に、自分なりに最適都市規模は人口何万人であるかを研究していた。今回その小西砂千夫氏及びその師弟である鳥取県伯耆町長、兵庫県川西市副市長の講義をうけることができた。各種財政指標は、重要ではあるがあくまで指標に過ぎず、地方債や基金を上手に使って事業を推進することが大切であり、自治体の財務指標がいくら健全であっても市民の満足度が低ければそれらの健全な数値も意味がないことを学んだ。